

## 第24回基本政策部会 議事要旨

### 1 日時

令和4年3月29日（火）13:00～15:00

### 2 場所

中央合同庁舎4号館4階 共用第2特別会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

中須賀部会長、松井部会長代理、青木委員、石田委員、櫻井委員、篠原委員、白坂委員、角南委員、常田委員、林委員、南委員

#### (2) オブザーバ

宇宙航空研究開発機構（JAXA） 石井理事

#### (3) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 河西事務局長、岡村審議官、恒藤参事官、齊藤参事官、上野参事官、笠間企画官

#### (4) 関係省庁

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課長	福井 俊英
農林水産省大臣官房政策課技術政策室長	松本 賢英
経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課宇宙産業室長補佐	伊奈 康二

### 4 議事要旨（○：意見等）

関係省庁及び説明者から資料1-1～1-8に基づいて説明。委員から、以下の意見があった。

<将来を見据えた宇宙政策について>

- 人材育成について、報告書（資料1-1）の提言で示された方針で取組を進めていくことが重要。
- 大学において宇宙関係の研究室の多くが資金面から運営に苦しんでいる。ISASや有望な大学以外の大学に対する支援も必要。例えば、地方の大学では、地場産業への貢献が求められ、宇宙の研究がやりにくい。
- 宇宙分野の人材には、英語環境で力を発揮することや、外国人など様々なバックグラウンドの人と協業できることが大切。早い時期から国際経験ができるようにしていくことが重要。
- 海外と価格面で劣らない小型のロケットは重要。
- 我が国のロケットの価格が高い理由について分析し、それを踏まえて方策を検討するべき。
- 衛星の小型化が更に進めば、小型ロケットに対する需要がさらに拡大する可能性が

あり、産業振興の観点からも小型ロケットへの政府による支援は重要。早く競争力のある小型ロケットを開発できれば、それをベースに衛星などのビジネスにも展開し、世界で競争していくことができる。

- ロケットについて、コスト低減の研究開発を進めて受注を増やし、更に安くなるという好循環を作っていくことが重要。民間の努力だけではなく、政府としても戦略的な支援をしていくべき。
  
- 文部科学省の革新的将来輸送システムの研究開発については、研究開発のための研究開発にならないよう、実用化に向けた具体的な目標を速やかに設定して進めるべき。
- 2030年に価格を1/2にするなら、そろそろ研究開発のメニューを整理する時期であり、そういったことも考慮して進めるべき。
- 2026年に実現を目指すようなビジネスに近いところは、民間にも負担をさせて研究開発を進めるべき。
- かつて宇宙研でやっていた往還機の研究の成果も活かしていくべき。
- 中長期的には、射場の整備についても、海外に整備するオプションも含めて、検討が必要。
  
- 今後の衛星関係の研究開発・実証のあり方について、我が国はプロジェクトベースでの研究開発が主流だが、プロジェクトを立ち上げてから研究開発を始めるようでは時間がかかるので、フロントローディングは重要な考え方。
- フロントローディングの言葉の定義を含め、国全体の大きな課題としてしっかりと議論して、予算の拡大も含めて取組を進めていくべき。
- フロントローディングにおいては、将来的な技術の出口を意識してテーマを決めることが重要。的を射た取組が重要。
- 出口を意識するにあたっては、視点が短期にかたよらないように留意すべき。すぐにはビジネスにならないが、先を見据えた研究開発も重要。短期と長期の両方の視点から、フロントローディングを考えていくべき。
  
- 衛星データの利用促進について、業種ごとに加えて、地域ごとに実証を行うことは、今後の横展開の可能性もあり有効。
- 衛星データ利用促進に向けて行政機関の業務手順等を改正する取組は、ずっと指摘してきたが、ようやく進んできたことは評価できる。引き続きスピード感を持って進めるべき。
- 衛星データの利用は、人口減少下で業務の効率化等で有効と考えられるので、引き続き取り組んで欲しい。
- 衛星データ利用の分野に、データ分析の専門家やAIベンチャー等との連携を通じて最先端技術が導入されるよう、工夫を検討しても良いのではないかな。
  
- 準天頂衛星システムについては、東南アジア等において大々的に宣伝し、利用を進めて欲しい。
- 衛星測位に関する研究開発を継続的に行う体制が、海外に比べて弱い。この分野の研究機関を整備する等の取組が必要ではないかな。